

| | |
|--------------|---|
| Title | 吃音をもつ児童・生徒の支援に関する実態調査 |
| Author(s) | 小林, 宏明 |
| Citation | 金沢大学教育学部紀要.教育科学編, 53: 219-233 |
| Issue Date | 2004-02-28 |
| Type | Departmental Bulletin Paper |
| Text version | |
| URL | http://hdl.handle.net/2297/725 |
| Right | |

*KURAに登録されているコンテンツの著作権は、執筆者、出版社（学協会）などが有します。

*KURAに登録されているコンテンツの利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用などの範囲内で行ってください。

*著作権法に規定されている私的使用や引用などの範囲を超える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。ただし、著作権者から著作権等管理事業者（学術著作権協会、日本著作出版権管理システムなど）に権利委託されているコンテンツの利用手続については、各著作権等管理事業者に確認してください。

吃音をもつ児童・生徒の支援に関する実態調査 ～学級担任による支援の実態と要望を中心に～

小林 宏明

**The support for children and adolescence who stutter in schools :
The actual conditions and needs of support from teachers.**

Hiroaki KOBAYASHI

1. はじめに

Johnson, W.ら(1967)は、吃音の問題を x (話しことばの症状)、 y (x に対する周囲の反応)、 z (y に対する本人の反応)の3辺からなる立方体の大きさに例えて表現した。これは、吃音を持つ児童・生徒の支援が、単に吃音の症状の軽減にとどまらない、生活全体を視野に入れたものであるべきことを示しているといえる。現在、吃音を持つ児童・生徒の支援は、主に「ことばの教室」において個別指導の形で行われている。個別指導は、上述の x (吃音の軽減を目指した話し方の指導等)や z (吃音に対するマイナスの意識の軽減等)の改善にとって有用な方法であると考えられる。しかし、これらは y の要素、すなわち、児童・生徒が学校生活を送る「場」である学級などでの的確な支援と併用されて初めて効果的に機能するといえる。しかし、学級担任(以下、担任)による吃音を持つ児童・生徒の支援については、堀(1999)や青山ら(2003)の実践などを除くとこれまでほとんど報告がなく、その実態も明らかにされていない。そこで、本研究では、吃音を持つ児童・生徒が、実際に担任からどのような支援を受けてきたのかという実態と、どのような支援を受けたかったかという要望を明らかにし、担任による効果的な支援方略を検討する基礎資料を得ることを目的に、吃音のセルフヘルプグループの言友会会員に対してアンケート調査を実施した結果を報告する。

2. 方法

2. 1. 調査対象

2002年9～10月に言友会の全国組織である全国言友会連絡協議会加盟の27言友会(当時)の会長宛てに調査協力の依頼文書を送付し、調査協力の了解がとれた18言友会を調査対象とした。2002年11月に、これらの18言友会の会員計824名に対して、調査用紙を配付した。原則として各会員個人あてに調査用紙と返信用封筒を同封したものを送付したが、言友会によっては例会開催時などに調査用紙等を配付したり、例会の時間の一部を用いて記入していただいたところもあった。調査用紙は12月末までに返答するように求めた。一部3月頃に返答いただいたものもあったがこれらも回答数に含めた。回収されたアンケートは292通(回収率35.4%)であった。

2. 2. 調査用紙の内容

調査用紙は、(1)フェイスシート(性別、年齢、言友会の所属年数、言友会への活動への参加形態、吃音の言語症状、日常生活の困難度)、(2)教師への吃音の悩みの相談経験、(3)小学校時代の吃音の悩み、(4)小学校時代の吃音への対応で嬉しかったこと、(5)小学校時代の吃音が出ている時の担任の対応の実際、(6)小学校時代の吃音が出ている時の担任の対応への要望、(7)小学校の担任に対する要望、(8)中高時代の悩みとその対処法、(9)中高時代の吃音の悩み、(10)中高時代の吃音

の悩みの相談経験、(11) 中高時代の周囲の人の吃音への対応の実際、(12) 中高時代の周囲の人の吃音への対応への要望、(13) 中高時代と現在の生活に対する満足度とその理由、(14) 中高時代の吃音の支援に対する要望、から構成されていた。なお、本研究では、以上の質問項目の中から、担任の支援の実際と要望に関する項目に焦点を絞って分析と検討を加えることとする。

3. 結果

3. 1. 調査協力者の概要

本調査にご協力いただいた調査対象者の概要は、以下の通りである。

(1) 性別 男性223人(76%)、女性64人(22%)、不明5名(2%)。

(2) 年齢 29歳以下50人(17%)、30～39歳66人(23%)、40～49歳72名(25%)、50～59歳69人(24%)、60歳以上33人(11%)、不明2人(1%)

(3) 言友会の所属年数 1年未満46人(6%)、1～5年108人(37%)、6～10年40人(14%)、11年以上93人(32%)、不明5名(2%)

(4) 言友会への参加形態 会の活動にはほとんど参加しない83人(28%)、例会に時々参加91人(31%)、例会にほぼ毎回参加54人(18%)、役職等について(た)59人(20%)、不明5名(2%)

(5) 吃音の言語症状と日常生活の困難度 小学校、中学校、現在の3つの時期について自己評定したものを Table 1 にまとめた。

(百分率については、小数点第一位を四捨五入しているため、全体の合計が100%にならない項目がある。以下同じ)。

3. 2. 小学校時代

3. 2. 1. 小学校の担任への吃音の悩みの相談経験

経験があると答えた人は、27人(9%)であった。年代別の比較では、20代以下14%、30代

12%、40代8%、50代7%、60代以上3%と年齢が若いほど相談ありの人の占める比率が高い傾向が見られた。さらに、吃音症状の重症度、日常生活の困難度別の比較では、重度(非常に重い、重い)の計)13%、軽度(非常に軽い、軽い)4%、及び困難(非常に困難、困難)12%、困難でない(困難でない、非常に困難でない)9%と、重度及び困難な人の比率が軽度及び困難でない人の比率を上回った(集計結果の詳細は巻末資料を参照のこと、以下同じ)。

Table 1 調査対象者の吃音の言語症状の重症度と日常生活の困難度

| | 重症度 | | 困難度 | |
|------------------|--------------|--------------|-------------|--------------|
| | 小学校 | 中高 | 小学校 | 中高 |
| 非常に重い(困難) | 20 (7%) | 21 (7%) | 20 (7%) | 30 (10%) |
| 重い(困難) | 106 (36%) | 127 (43%) | 78 (27%) | 106 (36%) |
| どちらとも いえない | 82 (28%) | 89 (30%) | 67 (23%) | 71 (24%) |
| 軽い (困難でない) | 54 (18%) | 43 (15%) | 86 (29%) | 66 (23%) |
| 非常に軽い (困難でない) | 17 (6%) | 4 (1%) | 28 (10%) | 9 (3%) |

3. 2. 2. 小学校時代の吃音の悩みとそれに対する担任の支援の有無

小学校時代の吃音の悩みを、(a) 自分自身の悩み、(b) 友達関係の中で生じる悩み、(c) 担任との関係の中で生じる悩みの3つに分けて尋ねた。また、(a) と (b) に関しては、それらの悩みに対する主な支援者として担任をあげている人の数についても調べた。

(a) 自分自身の悩みとして、「答えが分かっても言えない」90人(31%)、「消極的・悲観的になる」71人(24%)と回答した人が多かった。吃音症状の重症度、日常生活の困難度別の比較では、「答えが分かっても言えない」では重度37%、軽度21%、及び困難40%、困難で

ない25%、「消極的・悲観的になる」では重度27%、軽度21%、及び困難30%、困難でない21%、と重度及び困難な人の比率が軽度及び困難でない人の比率を上回った。逆に、「そう思う行動はない」では重度2%、軽度15%、及び困難1%、困難でない15%、と軽度及び困難でない人の比率が重度及び困難な人の比率を上回った。なお、主な支援者として担任をあげている人は全体で18人(6%)と少数にとどまった。

(b) 友達関係の中で生じる悩みとして、「まねされる」54人(18%)、「笑われる」51人(17%)と回答した人が多かった。また、そう思う行動がないと答えた人も54人(18%)と多く見られた。吃音症状の重症度、日常生活の困難度別の比較では、「まねされる」では重度27%、軽度8%、及び困難22%、困難でない14%、「笑われる」では重度19%、軽度15%、及び困難20%、困難でない13%、と重度及び困難な人の比率が軽度及び困難でない人の比率を上回った。逆に、「そう思う行動はない」では重度12%、軽度24%、及び困難7%、困難でない27%、と軽度及び困難でない人の比率が重度及び困難な人の比率を上回った。なお、主な支援者として担任をあげている人は全体で7人(2%)と非常に少数にとどまった。

(c) 担任との関係の中で生じる悩みについて、分かってほしいとくれない44人(15%)、特別扱いをされた23人(8%)などが多く見られた。また、そう思う行動がないと答えた人も75人(25%)と多く見られた。年代別の比較では、「そう思う行動はない」と答えた人が、20代では50%を占めていたのが、年代があがるにつれてその比率が減少し、60代では6%程度にとどまった。吃音症状の重症度、日常生活の困難度別の比較では、「分かってほしいとくれない」では重度18%、軽度7%、及び困難26%、困難でない7%、「特別扱いされる」では重度11%、軽度6%、及び困難13%、困難でない6%、と重度及び困難な人の比率が軽度及び困難でない人の比率を上回った。逆に、「そう思う行動は

ない」では重度19%、軽度38%、及び困難11%、困難でない37%、と軽度及び困難でない人の比率が重度及び困難な人の比率を上回った。

3. 2. 3. 小学校時代の担任の吃音への対応で嬉しかったこと

一番多かった回答は、「そう思う行動はない」117人(40%)であり、「暖かく見守る」35人(12%)、「あるがまを受け入れる」23人(8%)、「からかう子に注意」19人(7%)と続いた。吃音症状の重症度、日常生活の困難度別の比較では、「からかう子に注意」では、重度10%、軽度1%、及び困難11%、困難でない5%、と重度及び困難な人の比率が軽度及び困難でない人の比率を上回った。

3. 2. 4. 小学校時代の吃音が出ている時の担任の対応の実際

一番多かった回答は、「普通に話を聞いていた」119人(41%)であり、「心配そうな顔をして聞いていた」71人(24%)、「話の内容ではなく話し方に注意していた」22人(8%)と続いた。また、その他として、「イライラしながら聞いていた」、「途中で話を打ち切った」、「わざと読まないと思われて怒られた」、「せかされた」、「バカにされたような目をされた」等の回答が見られた。吃音症状の重症度、日常生活の困難度別の比較では、「心配そうな顔をして聞いていた」では、重度29%、軽度18%、及び困難30%、困難でない19%、「話の内容よりも話し方に注意」では、重度10%、軽度8%、及び困難11%、困難でない6%、と重度及び困難な人の比率が軽度及び困難でない人の比率を上回った。逆に、「普通に話を聞いていた」では、重度40%、軽度43%、及び困難37%、困難でない46%、と軽度及び困難でない人の比率が重度及び困難な人の比率を上回った。

3. 2. 5. 小学校時代の吃音が出ている時の担任の対応への要望

一番多かった対応は、「普通に話を聞いて欲しい」51人(17%)であり、「対処法を教えて欲しい」43人(15%)、「一緒にことばを言って欲しい」40人(14%)と続いた。また、「特に何も望まない」と回答した人も66人(23%)と多かった。吃音症状の重症度、日常生活の困難度別の比較では、「対処法を教えて欲しい」では、重度20%、軽度8%、及び困難19%、困難でない8%、と重度及び困難な人の比率が軽度及び困難でない人の比率を上回った。逆に、「特に何も望まない」では、重度18%、軽度24%、及び困難13%、困難でない29%、「一緒にことばを言って欲しい」では、重度14%、軽度17%、及び困難14%、困難でない18%、と軽度及び困難でない人の比率が重度及び困難な人の比率を上回った。

3. 2. 6. 小学校の担任に対する要望

「吃音についての知識を持って欲しい」127人(43%)と高い比率を占めた。その他の項目については、「話を聞いて欲しい」22人(8%)、「みんなと同じに扱って欲しい」20人(7%)、「食べることを気にしないで欲しい」20人(7%)と続いた(Fig. 1)。吃音症状の重症度、日常生活の困難度別の比較では、「吃音についての知識を持って欲しい」では、重度52%、軽度34%、及び困難49%、困難でない40%、「話を聞いて欲しい」では、重度11%、軽度6%、及び困難12%、困難でない5%、と重度及び困難な人の比率が軽度及び困難でない人の比率を上回った。逆に、「食べることを気にしないで欲しい」では、重度5%、軽度10%、及び困難6%、困難でない7%、「みんなと同じに取り扱って欲しい」では、重度5%、軽度10%、及び困難4%、困難でない10%、と軽度及び困難でない人の比率が重度及び困難な人の比率を上回った。

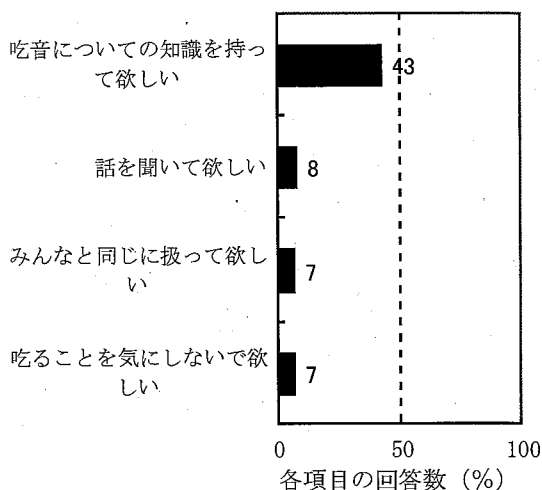


Fig. 1 小学校の担任に対する要望

3. 3. 中高時代

3. 3. 1. 中高時代の悩みとその対処法

中高校時代の悩みとして、吃音を第一位に挙げた人は163人(56%)であった。吃音症状の重症度、日常生活の困難度別の比較では、重度67%、軽度45%、及び困難64%、困難でない48%、と重度及び困難な人の比率が軽度及び困難でない人の比率を上回った。

また、対処法を見ると、「何もしなかった」56人(19%)、「本などで調べた」37人(13%)、「あきらめた」29人(10%)、「相談した」19人(6%)、と続いた。年代別では、「相談した」については、20代では10%だったのに対して、30代以降では5%程度以下であった。吃音症状の重症度、日常生活の困難度別の比較では、「本などで調べた」が重度17%、軽度4%、及び困難18%、困難でない9%、と重度及び困難な人の比率が軽度及び困難でない人の比率を上回った。

3. 3. 2. 中高時代の吃音の悩み

一番多かった悩みは、「食べるのではないかと不安・恐怖」104人(36%)であり、「進学・就職の際の不安」36人(12%)、「消極的

になった」20人(7%)、「話すことが恥ずかしい」12人(4%)、「からかわれる」10人(3%)、と続いた (Fig. 2)。吃音症状の重症度、日常生活の困難度別の比較では、「就職・進学不安」が、重度14%、軽度11%、及び困難14%、困難でない8%、「話すことが恥ずかしい」が、重度3%、軽度2%、及び困難5%、困難でない3%、「からかわれた」が、重度4%、軽度2%、及び困難5%、困難でない1%、と重度及び困難な人の比率が軽度及び困難でない人の比率を上回った。逆に、「食べるのではないかと不安・恐怖」では、重度38%、軽度45%、及び困難38%、困難でない39%、と軽度及び困難でない人の比率が重度及び困難な人の比率を上回った。

3. 3. 3. 中高時代の担任の吃音への対応の実際

「特に何もしなかった」150人(51%)が多く、「相談に乗ってくれた」13人(4%)、「吃音を理解しようとしてくれた」12人(4%)、「吃ってもいい雰囲気を作ってくれた」10人(3%)、「話し方だけに注目された」10人(3%)と続いた。吃音症状の重症度、日常生活の困難度別の比較では、「吃っても良い雰囲気を作ってくれた」では、重度1%、軽度9%、及び困難3%、困難でない4%、と軽度及び困難でない人の比率が重度及び困難な人の比率を上回った。

3. 3. 4. 中高時代の担任の吃音への対応への要望

「吃音の知識を持って欲しいという人」が35人(12%)と一番多く、「吃ってもいい雰囲気を作りたい」15人(5%)、「吃音を理解しようとして欲しい」12人(4%)、「気にしないで欲しい」12人(4%)、と続いた。また、「特に何も望まない」と答えた人も、77人(26%)と多かった。年代別に見ると、20代では特に何も望まないと答えた人が48%と、30代

以降(30%程度以下)に比べて多かった。また、吃音症状の重症度、日常生活の困難度別の比較では、「吃音の知識を持つ」では、重度14%、軽度9%、及び困難15%、困難でない7%、と重度及び困難な人の比率が軽度及び困難でない人の比率を上回った。逆に、「特に何も望まない」では、重度22%、軽度26%、及び困難17%、困難でない37%、と軽度及び困難でない人の比率が重度及び困難な人の比率を上回った。

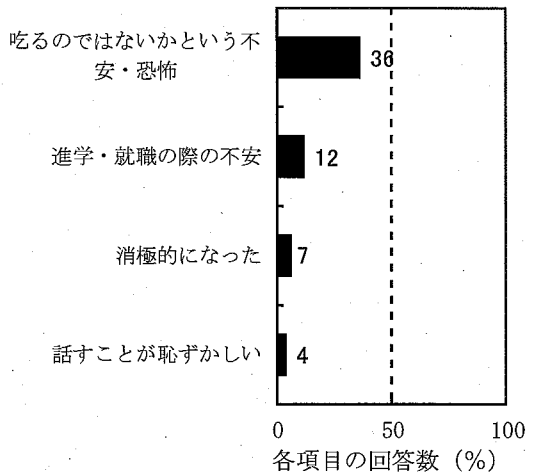


Fig. 2 中高時代の吃音の悩み

4. 考察

4. 1. 本調査から得られた吃音を持つ人の担任からの支援の実態と要望

4. 1. 1. 小学校時代

本調査の対象者の中で、吃音の悩みを担任に相談した経験があると答えた人は、9%にとどまった。ただし、年代が下がるにつれて徐々に相談経験がある人の比率が高まっていることから、若い年齢層になるほど担任に対して吃音の悩みを相談する傾向が増大している傾向があることが示唆された。とはいえ、一番相談経験者の占める比率の高い20代においても、その比率は14%に過ぎないことから、少なくとも本調査対象者が小学校に在籍していた今から10年ぐらい前までにおいては、吃音の悩みを担任に相談することはあまり一般的なことではなかったこ

とが推察される結果となった。

また、小学校時代の吃音の悩みとして、本人自身の悩みでは、「答えが分かっても言えない」、「消極的・悲観的になる」等が、友達関係の中で生じる悩みでは「まねされる」、「笑われる」と答えた人が多く見られた。しかし、これらの解決において担任の支援を受けたと答えた人はそれぞれ6%、2%と少数にとどまった。このことは、本調査対象者が小学校時代に抱えていた吃音に関する悩みに対して、担任がその解消や改善に必ずしも有効に機能しなかったことを示唆するものである。さらに、担任との関係の中で生じる悩みとして、分かろうとしてくれない、特別扱いはされた、何の相談もなく順番をとばされたということあげている人が多く見られた。これらのことは、本調査対象者が担任との関係で、自分のことや吃音のことを理解してくれなかったり、誤解されていることへの悩みが大きいことを示唆するものである。ただし、担任との関係において「そう思う行動はない」と答えた人が25%を占めており、かつ、年代が上がるにつれてその比率があがる傾向が見られた(20代では50%)。このことは、担任との関係に端を発する吃音の悩みが世代を下がっていくにつれて軽減されつつあることを推察させるものである。

小学校時代の担任の吃音への対応で嬉しかったことで一番多かった回答は、「そう思う行動はない」であった。このことは、本調査対象者においては、小学校の担任から特に嬉しかったと思われる行動を感じなかった人が多いことを示唆するものである。また、嬉しかった行動としてあげられた項目を見ると、「からかう子に注意する」といった具体的な支援よりも、「暖かく見守る」、「あるがままを受け入れる」といった吃音を持つ児童に対する接し方全般に関することをあげた人が多い傾向が認められた。

吃音が出ている時の担任の対応としては、「普通に話を聞いていた」と答えた人が約4割と一番多かった。しかし、「話の内容ではなく、話

し方に注意していた」や、「イライラしながら聞いていた」「怒られた」等、吃ることに対して罰刺激となる対応を取る担任も少数ではあるものの認められた。

小学校時代の吃音が出ている時の担任の対応への要望については、「普通に話を聞いて欲しい」と答えた人が一番多かった。しかし、「対処法を教えて欲しい」、「一緒に言葉を言って欲しい」等と答えた人も、同様に多く見られた。また、「特に何も望まない」と答えた人も多く見られた。このことは、吃音を持つ人の吃音への対応の方法に対する要望には支援の必要性の有無も含めて個人差が大きいことを示唆するものである。

小学校の担任に対する要望としては、「吃音についての知識を持って欲しい」が約4割と他の項目を圧倒した。また、このことは、吃音を持つ人は、担任が吃音についての知識に乏しいために、吃音を持つ児童の有効な支援が行えていないと考えていることを示唆するものである。逆にいうと、本調査対象者は、担任が吃音に対する知識を持つことで、吃音を持つ児童に対して適切な支援が行いうると思っているとも考えられるのである。

4. 1. 1. 中学・高校時代

本調査の対象者の過半数は、中高生時代の一番の悩みとして「吃音」をあげていた。つまり調査対象者の過半数は、進路や学業、友人関係などからくる悩みよりも、吃音の悩みの方がより大きいと捉えていることになる。年代別の結果を見ると、その傾向は40代以降でより顕著であるものの、20~30代でも40%以上の人吃音を第一位にあげていることから、年代を越えて中学・高校時代の吃音を持つ人の吃音の問題が非常に大きいことが窺い知れる。しかし、その対処法を見ると、「相談した」という人は5%以下とごく少数で、「本などで調べた」等自力で解決しようとしたり、「何もしない」、「あきらめた」等具体的な対処策を図ることが出来

なかった人が多かった。これらのことは、吃音を持つ中高生が自身の吃音の問題を相談したり、調べたり出来る場が非常に限られており、多くの人が自分の吃音の問題に対して積極的に対処することが出来ていない現状があることを示唆するものである。

中高生が抱える吃音の悩みを見ると、「吃るのではないかという不安・恐怖」が一番多かった。「吃るのではないかという不安・恐怖」とは、予期不安や予期恐怖のことを指すと考えられる。つまり、この時期の吃音の悩みが、からかわれたり叱責されるというような対人的な関係の中で発生するというよりは、予期不安という自身の中で発生・増殖する性質のものであると考えることが出来る。また、「進学・就職の際の不安」をあげた人も、予期不安に続いて多く認められた。このことは、吃音の問題が将来の進路決定において妨害要因となる可能性が高いことを示唆するものである。

中高時代の担任の対応の実際においては、「特に何もしなかった」と答えた人が過半数を占め、担任の取った具体的な支援を書いた人は少数に限られた。これらは、中高時代においては、担任から吃音の問題に対する支援を得られることが多くないことを示唆するものである。このような結果となった背景には、中高では教科担任制を取るため学級担任の役割が相対的に少ないこと、部活動や友人関係の拡大など小学校までと比べて担任が影響を及ぼす範囲が相対的に狭まることなどが考えられる。

しかし、中高時代の担任に対する対応の要望を見ると、特に何も望まないと答えた人は約25%に過ぎず、担任に対する吃音問題に対する具体的な支援を期待する人が少なくないことが示された。そして、一番要望が多かった支援は、小学校同様、「吃音の知識を持って欲しい」と言うものであった。このことは、小学校の時と同様、吃音の知識を持って生徒と接することでより適切な支援が実施できると考えている吃音を持つ人が多いことを示唆していると考えられ

る。

4. 2. 吃音の重症度別・生活の困難度別の比較から得られる傾向

各調査項目について、吃音の重症度別、生活の困難度別に比較したところ、吃音の重症度が重度あるいは生活の困難度が高いほど、以下のような傾向があることが示唆された。

- ・小学校の担任への吃音の悩みの相談経験がある人が多い。
- ・小学校時代の自分自身の悩みで、「消極的・悲観的になる」、「答えが分かってもいえない」をあげた人が多い。
- ・小学校時代の友達関係の中の悩みで、「まねされる」、「笑われる」をあげた人が多い。
- ・小学校時代の担任との関係の中の悩みで、「分かってほしい」、「特別扱いされる」をあげた人が多い。
- ・小学校時代の担任の対応で嬉しかったこととして、「からかう子に注意」をあげた人が多い。
- ・小学校時代の吃音が出ていた時の担任の対応の実際として、「心配そうな顔をして聞いていた」、「話の内容よりも話し方に注意していた」をあげた人が多い。
- ・小学校時代の吃音が出ている時の担任の対応の要望として、「対処法を教えて欲しい」をあげた人が多い。
- ・小学校の担任に対する要望として、「吃音についての知識を持って欲しい」をあげた人が多い。
- ・中高時代の悩みとして吃音を第一位にあげた人が多い。また、その対処法として、「本などで調べた」をあげた人が多い。
- ・中高生の吃音の悩みとして、「就職・進学の際の不安」、「話すことが恥ずかしい」、「からかわれた」をあげた人が多い。
- ・中高時代の担任の吃音への対応の要望として、「吃音の知識を持つ」をあげた人が多い。

逆に、吃音の重症度が軽度あるいは生活の困

難度が低いほど、以下のような傾向があることが示唆された。

- ・小学校時代の自分自身の悩みで、「そう思う行動はない」をあげた人が多い。
- ・小学校時代の友達関係の中の悩みで、「そう思う行動はない」をあげた人が多い。
- ・小学校時代の吃音が出ていた時の担任の対応の実際として、「普通に話を聞いていた」をあげた人が多い。
- ・小学校時代の吃音が出ている時の担任の対応の要望として、「特に何も望まない」、「一緒に言葉を言って欲しい」をあげた人が多い。
- ・小学校の担任に対する要望として、「食べることを気にしないで欲しい」、「みんなと同じに取り扱って欲しい」をあげた人が多い。
- ・中高生の吃音の悩みとして、「食べるのではないかという不安・恐怖」をあげた人が多い。
- ・中高時代の担任の吃音への対応の実際として、「吃っても良い雰囲気を作ってくれた」をあげた人が多い。
- ・中高時代の担任の吃音への対応の要望として、「特に何も望まない」をあげた人が多い。

このように、重症度及び困難度の相違によって、担任から受けた対応の実態や要望に、若干の相違が見られる結果となった。これらを要約すると、(1)重症度及び困難度が高い人の方がより多くの吃音の問題を有している。(2)重症度及び困難度の高い人の方がより多くの吃音に対する支援を望んでいる。(3)重症度及び困難度が高い人の方が吃音の言語症状に対する具体的な配慮の要望(吃音に対する対処法を教えて欲しい等)を多く持っている。(4)重症度及び困難度が低い人の方が、吃音でない人と同一の扱いをして欲しいという要望を多く持っている(食べることを気にしないで欲しいなど)等とまとめることができよう。しかし、以上は、あくまでもそのような実態や傾向を持つ人が相対的に多いということを示しているに過

ぎず、重症度や困難度が軽い人が(1)～(3)の特徴を全く有していなかったり、重い人が(4)の特徴を全く有していないわけではないことに注意をする必要がある。

4. 3. 本調査から示唆される担任による吃音を持つ児童・生徒の支援の在り方

ここまで、吃音を持つ児童・生徒に対する担任の対応の実際と要望について、その一端を示してきた。そこで、この節では、これらの知見に基づいて、担任による吃音を持つ児童・生徒の支援の在り方について論じていきたいと思う。まず、第一は、担任が吃音の知識を持つことの必要性である。本研究の調査対象者が、担任に望むこととして一番多かった回答は、小学校時代においても、中高時代においても、吃音の知識を持って欲しいということであった。このことは、裏を返せば、担任が吃音に対する知識が不足していると吃音を持つ人が認識していることを示唆するものである。これまで、担任に必要な吃音の知識がどのようなものであるのかについてはほとんど検証されていない。また、担任が吃音の学習をする機会としては、(a)教員養成課程での教育、(b)各種研修、(c)書籍やビデオ教材等による情報収集などが考えられ、現状ではこれらのいずれもが十分に整備されているとは言い難い。そこで、今後、担任が学級において吃音を持つ児童・生徒と接する際に必要な知識を整理するとともに、これらを広く教育・研修する機会や方法を確保することが望まれる。

第二は、児童生徒の吃音の相談に積極的に応じることの必要性である。小学校時代に担任に吃音の相談の経験がある人は、全体の1割程度に過ぎなかった。また、中高時代には、担任に限らず吃音のことを相談したことのある人はごく少数に限られていた。前新ら(2002)、朝日ら(2002)、早坂ら(2000)は、吃音の指導において、吃音のことをオープンに話せるような関係を作ることの重要性を述べている。勿論、

担任のみが唯一の相談者となるのではなく、保護者や、ことばの教室の担当教師や、部活動顧問といった他の教師、言語聴覚士やカウンセラーといった他の専門職種が必要に応じて随時接していくことが必要なのはいまでもないことである。しかし、特に学級担任制をとる小学校においては、担任の児童に与える影響は絶大なものであり、担任が児童の吃音の問題を把握し、適切な学級内での支援を行うためにも、児童・生徒の吃音の相談に積極的に応じていくことが望まれよう。

第三は、吃音を持つ児童生徒の個々の多様性を踏まえた上での支援である。本研究の結果、言語症状の重軽や生活の困難度のあるなしで、かかえる吃音の問題や必要とされる支援が若干異なることが示唆された。吃音を持つ児童生徒の支援を考える際には、このような個々の多様性の要因を考慮し、個々に応じた支援方略を決定していく必要があると考えられる。そして、実際の支援を行う際には、前述したように、家庭訪問や面談などの場を利用して、児童生徒やその保護者と相談や話し合いを十分なを行った上で、実際どのような支援をするかということの説明と同意（インフォームド・コンセント）を得ておくことが望まれる。また、これらの支援を行っていく際には、ことばの教室担当教諭を中心とした特別支援教育担当者や、生活指導担当教諭、スクールカウンセラー等と、その支援内容について相談・協議が出来るような場を設けることで、担任1人に負担がかからないような、学校体制の確立を図ることも必要になると考えられる。この意味では、現在、軽度発達障害を持つ児童生徒の教育支援体制として、文部科学省が取り組んでいる校内委員会等の特別支援体制モデル（文部科学省、2003）の枠組みを援用するなどの方策も考えられると思われる。

4. 4. 今後の課題

今後の課題としては、第一として言友会会員以外の吃音を持つ人に対する調査の実施があげ

られる。本研究は、吃音のセルフヘルプグループである言友会会員を対象にして行われた。言友会は、成人の吃音を持つ人の集まりであるため、成人期まで吃音が残っている比較的言語症状や生活困難の重い人が多いと考えられる。また、言友会では、吃音についての様々な知識や他の吃音を持つ人の経験を知ることが出来るため、通常の吃音を持つ人よりも吃音に対する知識が高かったり、吃音のことを深く考えたりする人が多いと考えられる。そして、そのことが本検査の結果に影響を及ぼしていることも十分考えられる。そこで、本研究で得られた知見が吃音を持つ人全体を代表しているのがどうかを確認するために、言友会以外の吃音を持つ人の調査が望まれるところある。

第二としては、吃音を持つ人の担任に対して持って欲しい知識の検討があげられる。本研究の結果、吃音を持つ人が担任に対して吃音の知識を持って欲しいという強い要望があることが示唆された。しかし、本調査においては、具体的にどのような情報がこれらの知識に該当するのかについての検討は十分に行えなかった。本調査の結果、吃音を持つ人が、重症度や困難度の違いによって、担任から受けた支援の実態や要望が異なっている示唆された。このことは、吃音を持っている人が群として同じような要望を持っているというよりかは、吃音を持つ人同士の中でも互いに担任に持って欲しい知識と考えている情報が異なっていることが示唆される。そこで、今後の研究では、これらの重症度や困難度別、あるいはその他の要因を考慮しながら、吃音を持つ人が担任に持って欲しいと思っている吃音に対する知識の実態について、検討を深めていく必要があると考えられる。

謝 辞

本研究を実施するにあたり、全国言友会連絡協議会及び加盟18言友会の会長及び運営委員の皆様にはアンケート調査実施にご快諾いただいたばかりか、色々と細かいご配慮を賜りました。

また、会員の皆様には、大部のアンケートにも
かかわらず、快く調査協力に応じていただきま
した。深く御礼申し上げます。

文 献

青山新吾・水町俊郎 (2003) 言葉の教室における
吃音児の教育的援助について. 愛媛大学教育
学部障害児教育研究室研究紀要, 26, 71-87.
朝日滋也・中村勝則・豊島瑞穂・太田真紀・長澤
泰子 (2002) 子どもとともに吃音に向き合う
ための教材開発の試み. 日本特殊教育学研究
第40回発表論文集, 616.
Johnson, W. et al. (1967) *Speech handicapped school
children*, Third edition. Harper & Row.

早坂菊子・小林宏明 (2000) 重度吃音児童の治療
過程—直接法と間接法の統合から—. 音声言
語医学, 41, 273-242.

堀彰人 (1999) 学級担任の先生へ. JSP (ジャパ
ン・スタタリング・プロジェクト), 日本吃音臨
床研究会編. 吃音とじょうずにつきあうため
の吃音相談室. 大阪身体障害者団体定期刊行
物協会.

前新直志・磯野信策・寺尾恵美子 (2002) 幼児か
ら学齢期にかけての吃音指導の一例—間接法
中心から直接法中心への移行に伴う母子の心
理的变化—. 特殊教育学研究, 39, 33-46.

文部科学省 (2003) 今後の特別支援教育の在り方
について (最終報告). LD 研究, 65-82.

巻末資料

(1) 小学校時代に担任の先生に吃音のことを相談したことがありますか。

| 項目 | 総数 | 年齢別 | | | | | 重症度別 | | 困難度別 | |
|----|------------|------------|------------|-----------|-----------|-----------|-------------|-----------|-------------|------------|
| | | <20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代< | 重度 | 軽度 | 困難 | 困難でない |
| はい | 27 (9%) | 7 (14%) | 8 (12%) | 6 (8%) | 5 (7%) | 1 (3%) | 16 (13%) | 3 (4%) | 12 (12%) | 10 (9%) |

※ 重症度別 重度は「とても重い」と「重い」の合計、軽度は「軽い」と「非常に軽い」の合計。

※ 困難度別 困難は「とても困難」と「困難」の合計、困難でないは「困難でない」と「非常に困難でない」の合計。

(2-1) 小学校時代の自分自身に関する吃音の悩みは何ですか。また、それに対して担任の先生が何らかの支援をしてくれましたか。

| 項目 | 総数 | 年齢別 | | | | | 重症度別 | | 困難度別 | |
|------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | | <20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代< | 重度 | 軽度 | 困難 | 困難でない |
| 答えがわかっても 言えない | 90 (31%) | 13 (26%) | 14 (21%) | 21 (29%) | 28 (41%) | 14 (42%) | 47 (37%) | 15 (21%) | 39 (40%) | 28 (25%) |
| 悲観的・消極的になる | 71 (24%) | 14 (28%) | 20 (30%) | 15 (21%) | 17 (25%) | 5 (15%) | 34 (27%) | 15 (21%) | 29 (30%) | 24 (21%) |
| そう思う行動はない | 21 (7%) | 5 (10%) | 6 (9%) | 6 (8%) | 2 (3%) | 2 (6%) | 2 (2%) | 11 (15%) | 1 (1%) | 17 (15%) |
| 担任の支援あり | 18 (6%) | 2 (4%) | 5 (8%) | 3 (4%) | 5 (7%) | 3 (9%) | 10 (8%) | 4 (6%) | 9 (9%) | 7 (6%) |

※ 自分自身の悩みについて、上位3項目を記載した。

(2-2) 小学校時代の友達関係に関する吃音の悩みは何ですか。また、それに対して担任の先生が何らかの支援をしてくれましたか。

| 項目 | 総数 | 年齢別 | | | | | 重症度別 | | 困難度別 | |
|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | | <20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代< | 重度 | 軽度 | 困難 | 困難でない |
| まねされる | 54 (18%) | 12 (24%) | 16 (24%) | 13 (18%) | 7 (10%) | 6 (18%) | 34 (27%) | 6 (8%) | 22 (22%) | 16 (14%) |
| そう思う行動はない | 54 (18%) | 11 (22%) | 9 (14%) | 12 (17%) | 16 (23%) | 6 (18%) | 15 (12%) | 17 (24%) | 7 (7%) | 31 (27%) |
| 笑われる | 51 (17%) | 9 (18%) | 15 (23%) | 15 (21%) | 11 (16%) | 1 (3%) | 24 (19%) | 11 (15%) | 20 (20%) | 15 (13%) |
| 担任の支援あり | 7 (2%) | 2 (4%) | 3 (5%) | 1 (1%) | 1 (1%) | 0 (0%) | 1 (1%) | 0 (0%) | 5 (5%) | 1 (1%) |

※ 友達関係の悩みについて、上位3項目を記載した。

(2-3) 小学校時代の担任の先生との関係に関する吃音の悩みは何ですか。

| 項目 | 総数 | 年齢別 | | | | | 重症度別 | | 困難度別 | |
|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | | <20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代< | 重度 | 軽度 | 困難 | 困難でない |
| そう思う行動はない | 75 (26%) | 25 (50%) | 17 (26%) | 17 (24%) | 14 (20%) | 2 (6%) | 24 (19%) | 27 (38%) | 11 (11%) | 42 (37%) |
| 分ろうとしてくれない | 44 (15%) | 7 (14%) | 8 (12%) | 12 (17%) | 11 (16%) | 6 (18%) | 23 (18%) | 5 (7%) | 25 (26%) | 8 (7%) |
| 特別扱いされた | 23 (8%) | 0 (0%) | 5 (8%) | 10 (14%) | 6 (9%) | 2 (6%) | 14 (11%) | 4 (6%) | 13 (13%) | 7 (6%) |

※ 担任との関係での悩みについて、上位3項目を記載した。

(3) 小学校時代の担任の先生の対応で嬉しかったことは何ですか。

| 項目 | 総数 | 年齢別 | | | | | 重症度別 | | 困難度別 | |
|------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | | <20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代< | 重度 | 軽度 | 困難 | 困難でない |
| そう思う行動はない | 117 (40%) | 27 (54%) | 20 (30%) | 34 (47%) | 24 (35%) | 12 (36%) | 54 (43%) | 27 (38%) | 41 (42%) | 43 (38%) |
| 暖かく見守る | 35 (12%) | 4 (8%) | 9 (14%) | 10 (14%) | 8 (12%) | 4 (12%) | 16 (13%) | 9 (13%) | 13 (13%) | 12 (11%) |
| あるがまを受け入れる | 23 (8%) | 3 (6%) | 7 (11%) | 6 (8%) | 7 (10%) | 0 (0%) | 11 (9%) | 6 (8%) | 7 (7%) | 12 (11%) |
| からかう子を注意 | 19 (7%) | 4 (8%) | 8 (12%) | 4 (6%) | 1 (1%) | 2 (6%) | 13 (10%) | 1 (1%) | 11 (11%) | 6 (5%) |

※ 上位4項目を記載した。

(4) 小学校時代の担任の先生は、吃音が出ている時どのような対応をしていましたか。

| 項目 | 総数 | 年齢別 | | | | | 重症度別 | | 困難度別 | |
|--------------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | | <20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代< | 重度 | 軽度 | 困難 | 困難でない |
| 普通に話を聞いてくれる | 119 (41%) | 25 (50%) | 30 (45%) | 24 (33%) | 28 (41%) | 12 (36%) | 51 (40%) | 31 (44%) | 36 (37%) | 52 (46%) |
| 心配そうな顔をしながら聞いていた | 71 (24%) | 8 (16%) | 21 (32%) | 19 (26%) | 19 (28%) | 4 (12%) | 36 (29%) | 13 (18%) | 29 (30%) | 22 (19%) |
| 話の内容ではなく話し方に注意していた | 22 (8%) | 3 (6%) | 3 (5%) | 7 (10%) | 4 (6%) | 5 (15%) | 13 (10%) | 6 (8%) | 11 (11%) | 7 (6%) |

(5) 小学校時代の担任の先生に、吃音が出ている時にどのような対応をして欲しかったですか。

| 項目 | 総数 | 年齢別 | | | | | 重症度別 | | 困難度別 | |
|-------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | | <20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代< | 重度 | 軽度 | 困難 | 困難でない |
| 特に何も望まない | 66 (23%) | 14 (28%) | 14 (21%) | 19 (26%) | 16 (23%) | 3 (9%) | 23 (18%) | 17 (24%) | 13 (13%) | 33 (29%) |
| 普通に話を聞いて欲しい | 51 (17%) | 10 (20%) | 17 (26%) | 13 (18%) | 6 (9%) | 5 (15%) | 21 (17%) | 15 (21%) | 19 (19%) | 20 (18%) |
| 対処法を教えて欲しい | 43 (15%) | 7 (14%) | 9 (14%) | 8 (11%) | 14 (20%) | 5 (15%) | 25 (20%) | 6 (8%) | 19 (19%) | 9 (8%) |
| 一緒にことばを言 って欲しい | 40 (14%) | 2 (4%) | 11 (17%) | 17 (24%) | 8 (12%) | 2 (6%) | 18 (14%) | 12 (17%) | 14 (14%) | 20 (18%) |

※ 上位4項目を取り上げた。

(6) 小学校時代の担任の先生に最も望むことは何ですか。

| 項目 | 総数 | 年齢別 | | | | | 重症度別 | | 困難度別 | |
|------------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | | <20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代< | 重度 | 軽度 | 困難 | 困難でない |
| 吃音についての知識を持って欲しい | 127 (43%) | 18 (36%) | 29 (44%) | 35 (49%) | 30 (43%) | 15 (45%) | 65 (52%) | 24 (34%) | 48 (49%) | 46 (40%) |
| 話を聞いて欲しい | 22 (8%) | 6 (12%) | 6 (9%) | 5 (7%) | 2 (3%) | 3 (9%) | 14 (11%) | 4 (6%) | 12 (12%) | 6 (5%) |
| みんなと同じに取り扱って欲しい | 20 (7%) | 4 (8%) | 6 (9%) | 3 (4%) | 3 (4%) | 4 (12%) | 6 (5%) | 7 (10%) | 4 (4%) | 11 (10%) |
| 吃ることを気にしないで欲しい | 20 (7%) | 2 (4%) | 4 (6%) | 6 (8%) | 6 (9%) | 2 (6%) | 6 (5%) | 7 (10%) | 6 (6%) | 8 (7%) |

※ 上位4項目を取り上げた。

(7-1) 中高時代の一番の悩みは何でしたか。

| 項目 | 総数 | 年齢別 | | | | | 重症度別 | | 困難度別 | |
|----|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | | <20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代< | 重度 | 軽度 | 困難 | 困難でない |
| 吃音 | 163 (56%) | 22 (44%) | 28 (42%) | 49 (68%) | 44 (63%) | 20 (60%) | 99 (67%) | 21 (45%) | 87 (64%) | 36 (48%) |

(7-2) 中高時代の吃音の悩みに対してどのように対処していましたか。

| 項目 | 総数 | 年齢別 | | | | | 重症度別 | | 困難度別 | |
|---------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | | <20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代< | 重度 | 軽度 | 困難 | 困難でない |
| 何もなかった | 56 (19%) | 11 (22%) | 21 (32%) | 2 (3%) | 21 (30%) | 1 (3%) | 39 (26%) | 11 (23%) | 37 (27%) | 20 (27%) |
| 本などで調べた | 37 (13%) | 5 (10%) | 7 (11%) | 11 (15%) | 11 (16%) | 3 (9%) | 25 (17%) | 2 (4%) | 24 (18%) | 7 (9%) |
| あきらめた | 29 (10%) | 5 (10%) | 8 (12%) | 11 (15%) | 4 (6%) | 1 (3%) | 13 (9%) | 6 (13%) | 13 (10%) | 6 (8%) |
| 相談した | 17 (6%) | 5 (10%) | 3 (5%) | 3 (4%) | 4 (6%) | 2 (6%) | 7 (5%) | 3 (6%) | 8 (6%) | 3 (4%) |

※ 上位4項目を取り上げた。

(8) 中高時代の吃音のどのようなところで悩んでいましたか。

| 項目 | 総数 | 年齢別 | | | | | 重症度別 | | 困難度別 | |
|------------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | | <20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代< | 重度 | 軽度 | 困難 | 困難でない |
| 吃るのではないかという不安・恐怖 | 104 (36%) | 13 (26%) | 22 (33%) | 27 (38%) | 32 (46%) | 10 (30%) | 56 (38%) | 21 (45%) | 52 (38%) | 29 (39%) |
| 進学・就職の際の不安 | 36 (12%) | 8 (16%) | 10 (15%) | 11 (15%) | 4 (6%) | 3 (9%) | 20 (14%) | 5 (11%) | 19 (14%) | 6 (8%) |
| 消極的になった | 20 (7%) | 3 (6%) | 4 (6%) | 8 (11%) | 4 (6%) | 1 (3%) | 11 (7%) | 1 (2%) | 10 (7%) | 5 (7%) |
| 話すことが恥ずかしい | 12 (4%) | 1 (2%) | 3 (5%) | 5 (7%) | 2 (3%) | 1 (3%) | 5 (3%) | 1 (2%) | 7 (5%) | 2 (3%) |
| からかわれる | 10 (3%) | 4 (8%) | 5 (8%) | 1 (1%) | 0 (0%) | 0 (0%) | 6 (4%) | 1 (2%) | 7 (5%) | 1 (1%) |

※ 上位5項目を取り上げた。

(9) 中高時代の担任の先生は、あなたの吃音に対してどのような対応をしましたか。

| 項目 | 総数 | 年齢別 | | | | | 重症度別 | | 困難度別 | |
|------------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | | <20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代< | 重度 | 軽度 | 困難 | 困難でない |
| 特になにもしなかった | 150 (51%) | 29 (58%) | 28 (42%) | 47 (65%) | 37 (54%) | 9 (27%) | 79 (53%) | 24 (51%) | 70 (51%) | 41 (55%) |
| 相談に乗ってくれた | 13 (4%) | 4 (8%) | 3 (5%) | 3 (4%) | 3 (4%) | 0 (0%) | 7 (5%) | 0 (0%) | 6 (4%) | 3 (4%) |
| 吃音を理解しようとしてくれた | 12 (4%) | 0 (0%) | 7 (11%) | 1 (1%) | 3 (4%) | 1 (3%) | 7 (5%) | 1 (2%) | 5 (4%) | 7 (9%) |
| 吃ってもいい雰囲気を作ってくれた | 10 (3%) | 2 (4%) | 4 (6%) | 2 (3%) | 2 (3%) | 0 (0%) | 2 (1%) | 4 (9%) | 4 (3%) | 3 (4%) |
| 話し方のみに注目された | 10 (3%) | 2 (4%) | 3 (5%) | 2 (3%) | 3 (4%) | 0 (0%) | 6 (4%) | 1 (2%) | 4 (3%) | 3 (4%) |

※ 上位5項目を取り上げた。

(10) 中高時代の担任の先生に、吃音に対してどのような対応・支援をして欲しかったですか。

| 項目 | 総数 | 年 齢 別 | | | | | 重症度別 | | 困難度別 | |
|------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | | <20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代< | 重度 | 軽度 | 困難 | 困難でない |
| 特に何も望まない | 77 (26%) | 24 (48%) | 21 (32%) | 14 (20%) | 16 (23%) | 2 (6%) | 32 (22%) | 12 (26%) | 23 (17%) | 28 (37%) |
| 吃音の知識を持って欲しい | 35 (12%) | 5 (10%) | 6 (9%) | 12 (17%) | 10 (14%) | 2 (6%) | 21 (14%) | 4 (9%) | 21 (15%) | 5 (7%) |
| 吃ってもいい雰囲気を作って欲しい | 15 (5%) | 1 (2%) | 4 (6%) | 6 (8%) | 2 (3%) | 2 (6%) | 6 (4%) | 4 (9%) | 7 (5%) | 3 (4%) |
| 吃音を理解しようとして欲しい | 12 (4%) | 2 (4%) | 5 (8%) | 5 (7%) | 0 (0%) | 0 (0%) | 5 (3%) | 3 (6%) | 7 (5%) | 3 (4%) |
| 吃音を気にしないで欲しい | 12 (4%) | 2 (4%) | 4 (6%) | 2 (3%) | 3 (4%) | 1 (3%) | 7 (5%) | 3 (6%) | 6 (4%) | 3 (4%) |

※ 上位5項目を取り上げた。